

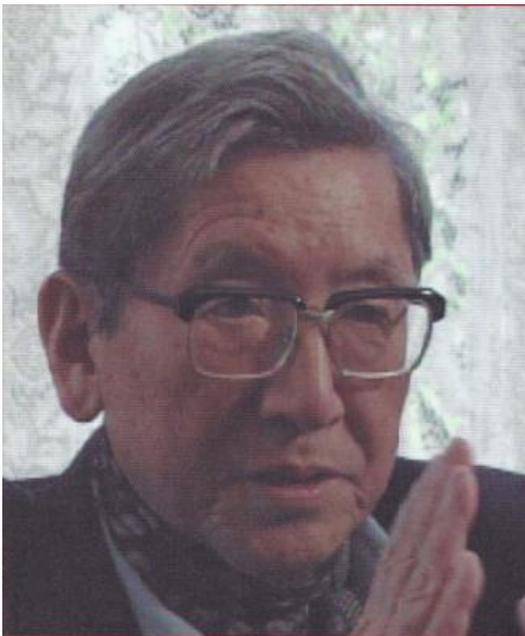


こがねいピースアクションとは…

2014年11月9日「ピースパレード」、2015年3月7日「小金井平和の日・市民イベント」などから集まった市民がつくる、いのちと平和のためのネットワーク。5月に発足。安全保障体制を大きく変える、危ない流れをストップさせるため、連続したアクションを多彩に企画してきます。



《戦争と平和》連続上映会



「日高六郎が語る体験的〈戦争と平和〉論」



「流血の記録 砂川」

第1回 「日高六郎が語る体験的〈戦争と平和〉論」

88分 2005年 構成：金聖雄 プロデューサー：陣内直行

6月12日(金)19時 (開場 18時30分)

上映後トーク：金聖雄 (映画監督)

第2回 「流血の記録 砂川」

56分 1956年 総編集：亀井文夫
企画：砂川斗争記録映画製作委員会

6月21日(日)19時 (開場 18時30分)

上映後トーク：島田清作 (元立川市議)

会場：小金井市公民館本館 視聴覚室 (福社会館4階)

上映協力費：500円 問合せ：090-1548-6014 (陣内)

主催：キムーンフィルム／やしほ映画社／ミストラル・ジャパン／ONE'S EYES FILM



私たちは「こがねいピースアクション2015」に賛同しています。

《戦争と平和》を考える連続上映会

〈1回目〉 6月12日（金） 19時

『日高六郎が語る体験的〈戦争と平和〉論』 88分 2005年

上映後トーク：金 聖雄（映画監督）

戦後を代表する「文化人」として論壇をリードしてきた社会学者・日高六郎。いま 98 歳。イラク戦争への自衛隊の派遣がおこなわれ始めた 2005 年、私は、フランスに在住していた日高六郎を訪ね、自らの体験を土台に「戦争と平和」を語ってもらった。戦時中、中国青島で中国人と共に暮らした少年時代、家族だけが読む日高家の家庭新聞、兄の戦死、若き研究者としての苦悩、そして敗戦、感動の憲法制定・・・しかし、いまふたたび、自衛隊は地球の裏側まで派遣されている。日高六郎は、ロングインタビューの最後に、「ひとり一人が現在が危機的状況であるということをもう少し考え、大きな勇気でなくていい、少しの勇気でも出していくことが大切だ」と語ってくれたことを今も忘れない。

（監督 金聖雄）



日高 六郎 1917 年生れ 社会学者

東京大学教授 京都精華大学教員を経て渡仏

主な著作：「戦後思想を考える」「私の平和論」（岩波新書）

「戦争のなかで考えたこと」（筑摩書房）

〈2回目〉 6月21日（日） 19時

『流血の記録 砂川』 56分 1956年

上映後トーク：島田清作（元立川市議）

小金井から五日市街道を西へ行くと立川市砂川町がある。ここで、1955～56年に米軍旧立川基地拡張をめぐる「砂川闘争」が展開された。土地を取り上げられることに抵抗する農民に対し、警察官が出動、負傷者は1,000人を超え、流血の悲劇となった。複数のカメラはでその歴史的な瞬間を、農民の視点から生々しく記録し、日本ドキュメンタリー映画の大先輩、亀井文夫が編集した。

「砂川闘争」から今年で 60 年。砂川に近い米軍横田基地にオスプレイが配備されるという。決して「砂川闘争」は過去の話ではない。当時、高校 2 年生で「砂川闘争」に参加した島田清作さんに上映後、お話をいただく。

※各作品ともDVD版での上映となります。

《戦争と映画》を考える連続上映会 は7月以降の上映も予定しています。